



学ばざれば壁に面す

「壁にぶち当たってしまったって、悩んでいます」と言いながら、相談に来る人が少なくない。

それ以上進むのが困難な状況に陥ること、物事が行き詰まったこ

「壁に馬を乗りかける」という。

だが、全身体当たりで壁にぶつからなければ、ぶち当たったという表現はでてこない。

行き詰まった状況を理解してもらうには、「壁が目の前に立ち上がる」という状態を観察する力

転期に立つ経営の視座²⁵ 智に働けば角が立つ

とを「壁に突き当たるといいうが、そんな生やさしいものではない」ということを伝えたいからこそ、「ぶち当たる」と言うのであろう。

物事をわかりやすく伝えようとすると、ことわざ、格言、喩え話などを用いることがある。

無理に押し通そうとすることを

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。1991年に独立。介護事業に関する独自の調査に基づいたデータ分析を各誌・紙に発表。著書に『99の言葉の杖』(日本医療企画)、『早川浩士の常在学場』(筒井書房)、『介護人財創造塾』(筒井書房)、『介護保険改正に勝つ! 経営』(年友企画)、『データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望』(日本医療企画)など。

<http://www.hayakawa-planning.com>

ブログ: <http://ameblo.jp/hayakawa-planning/>

とともに説明ができる国語力は欠かせない。

状況を打開する方策は、壁に準えて列記してみるとよい。

- 1 壁そのものを破壊する
- 2 壁を乗り越える
- 3 壁がなくなる縁まで壁に沿って歩き続ける

目の前に壁が立ちただかろうとも、学ぶことで壁を乗り越えることができるのだが、帝王学の書として知られる『書経』には不学牆面^{ふがくしょうめん}(学ばざれば壁に面す)とある。他に「壁にする」「壁に耳」「壁一重」「壁に塗られた田螺」「壁の物言う世」と、壁の例えは奥深い。

親父の小言

何かしら行き詰まった状況にあつて助言を求めたい人のなかには、大言(物事を誇張し、偉ぶって大きいことを言うこと)な物言いとしか思えない人もいるだろう。

「大事の前の小事」*1。

これをもじって「大言の前の小言」と、ある介護事業所に飾られた「親父の小言」の扁額に記された言葉の数々から、小言の知恵が溢れていると感じられない人は、「一を以て二を知らず」*2と言わざるを得ないが、如何。

朝きげんよくしる

火は粗末にするな

人には腹を立てるな

風吹きに遠出するな

恩は遠くからかへせ

年寄りはいたわれ

子の云うことをきくな

年忌法事をしる

初心は忘れるな

家業には精を出せ

借りては使うな

働いて儲けて使え

不吉は云うべからず

女房は早く持て

義理は欠かすな

ばくちは決して打つな

大酒は飲むな

大めしは喰うな

判事はきつく断れ

自らに過信するな

貧乏は苦しめるな

火事は覚悟しておけ

水は絶やさぬようにしる

戸締りに気をつけろ

怪我と災いは恥と思え

拾いは届け身につけるな

小商もの値切るな

何事も身分相応にしる

産前産後は大切にしろ

泣きごとは云うな

万事に気を配れ

神仏はよく拝ませ

病気は仰山にしる

人の苦勞は助けてやれ

家内は笑つて尽せ

智に働けば角が立つ。

*1: 2015年5月号本欄参照 *2: 2015年6月号本欄参照